

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3070105295
法人名	有限会社きのしたメディカルサービス
事業所名	グループホームかがやき
所在地	和歌山県和歌山市杵宜920-1 (電 話) 073-465-3333

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年11月24日	評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】(21年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.3人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円・53,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃6か月分) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ ー 円	
	または1日当たり	円	

(4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 69 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人泰伸会きのしたクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの母体が医療機関のため、利用者の健康には十分な治療体制が取られ、家族・利用者が安心できる支援体制がとられている。利用者の希望を聞きながら利用者本位のサービスに心掛け、入浴・外出・リハビリ・レクリエーションなどゆとりを持って支援している。また、施設長、管理者は、「利用者にとっての幸せとは何か」を常に求め、更に質の向上に向けて努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員にも伝え共に検討し、継続した改善がおこなわれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 更に質を向上させるため取り組んでいて、自己評価は職員全員に用紙を配ったものを持ち寄り検討したものを、管理者がまとめた。指摘のあった事項は具体的な改善にいたっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 手紙や面会時において出された家族からの意見等について運営会議で検討している。また、施設の現状を報告して意見を貰い、施設サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には毎月送っている「お便り」にご意見記入欄を設けている他、請求書類送付時にも意見用紙を同封し送付している。職員の接遇態度や施設への意見があれば会議で検討し改善する等運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の慣習を大切にして、老人会や幼稚園児を招いたり、夏祭りには地域の方々に開放し理解して貰うよう努める等、意欲を持って地域に馴染む努力をしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が検討し「笑顔と笑顔が地域をつなぎ皆んな楽しく生活の場へ」という事業所独自の理念を作り上げている。また、少しでも笑う事で幸せになるようにと、道で出会う人々にも笑顔で話し掛けるように努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分達が決めた理念を管理者と職員は、少しでも笑顔で生活出来るよう実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が自治会に加入していて、地元自治会の老人会を夏祭りや敬老会に招いたり、定期的に近くの幼稚園とも交流している。また、地域の行事参加なども積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、職員全員に用紙を配り持ち寄って検討したものを、管理者がまとめた。指摘事項について手指消毒手拭など取り入れ具体的な改善にいたっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、包括支援センター、家族会、居宅事業所、職員、老人会役員等で構成しており、2ヶ月に1回開催している。更により多くの家族の人に参加してもらい、施設現状等の報告をして意見を貰いサービスの向上に取り組んでいる。連休が続く時など利用者が退屈しないようにとの意見を受け、ドライブを計画し実施した。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域地域の市政であるため、ホームの利用者についてや運営上不明な内容があれば電話で連携を充分とり、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや金銭管理を月1回報告している。行事案内、生活の様子等「お便り」に出来るだけ写真を多く入れて知らせている。個々の体調変化時はすぐに電話報告したり、面会時にも報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回送っているお便りに、ご意見記入欄を設けているが、請求書類送付時、随時施設長宛ての意見用紙を同封し、職員の接遇態度、施設への意見があれば会議にかけ、改善するよう運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員には有給休暇を取り易くし離職を出来るだけ抑えることで馴染みの職員を多くする様にしている。新任の職員については十分利用者の特徴等を理解し、利用者が不安なく馴染めるよう時間をかけ慣れた職員が付き添い指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を月1回開催しており、外部研修には職員の希望も入れ参加している。研修はデイサービスと共同で年間計画を立て実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加入し同業者と交流しており、外部研修や施設見学等で行き来しネットワークを作り質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望本人、家族にホームの見学・家庭訪問・体験デイをもらい、徐々にホームの雰囲気に馴染んで貰える様に家族と共に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に料理や、家事を行うことで料理・農作業・暮らしの話を聴き、教えられたり、一緒に喜び、楽しみ、支え合いの関係を築く努力をしている。野菜作りのアドバイスや昔の生活の知恵を聞き色々と学び干し柿づくりに共に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意向・希望把握に努めている。本人から情報を得ることが困難な方や意思表示の困難な方は家族から情報を得たり、推察や問いかけで本人の希望を察知し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のサービス担当者会議・モニタリング・申し送り、家族の希望等、全員で意見交換して介護計画に意見情報を反映した介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを3ヶ月に1回行い、変化の出たときはその都度見直しを行い、本人、家族と話し合い現状に即した計画を作成している。看取り介護も十分に家族、医師と連携をとり計画をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に病状の変化ある場合はクリニックの看護師・医師の協力を得たり、家族が来れないときは職員が付き添い希望の医療機関で適切な医療が受けられる様柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接のクリニックと連携をとりながら、家族や利用者の希望に添って希望の医療機関が選べ治療が受けられる様に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・担当医と十分話し合い、終末をホームで迎える事を、全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部・内部研修でプライバシーを損ねるような介護をしない様に対応している。また、個人情報他他の家族や外来者に漏らさない様徹底している。記録類は職員室の書庫に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで過ごすのではなく、利用者の希望を聞きながら、柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調によるが準備や片付け等話しながら共に行い、食事が楽しく出来るよう雰囲気づくりを大切にしている。また朝食は、和食・洋食を選ぶことが出来る。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、利用者の楽しみにしているリハビリ時間に合わせ午前入浴にしているが、午後入浴希望の利用者にも対応している。出来るだけ当日に入浴希望時間を聞いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望や利用者一人一人の能力に合わせ、新聞紙や広告紙で箱作りや散歩・ドリル・歌を楽しんで貰い、それぞれが楽しみや気晴らしが出来る様に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出る時はそれとなく見守りをしている。最近は身体的な理由で外出の希望が少なくなっているが、リハビリに通い、そこで出会う人と話しをすることが楽しみで戸外にでている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しており施錠していない。出て行かれる時は職員が見守りを充分して、出来るだけ自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回隣接するデイサービスと共同で火災避難訓練を、実施している。消防署に依頼し協力して貰っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックや、利用者の状態、希望によって水分バランスの調整をしており、献立の変更も状態に応じて栄養バランスを保てるように考慮し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事写真・手芸品・花等が飾られ季節感を味わえる空間造りが工夫され、テレビの音量、職員の話し声等も利用者に不快感を感じさせないように配慮工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の気に入りの家具・仏壇・籐椅子・テレビなど持ち込み、家族の写真を壁に飾ったり、好みの小物を飾り居心地良く暮らせる環境に配慮工夫されている。		